

会 議 録

第6回定例会

開会 平成30年6月26日

教育委員会会議録

1 開 会 平成30年6月26日 午後1時30分

2 閉 会 平成30年6月26日 午後2時55分

3 教育委員会出席者

教育長	美馬 持仁
委員	松重 和美
委員	辻 貴博
委員	藤本 宗子
委員	小林 信行
委員	河口 雅子

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	勢井 研
教 育 次 長	青山 佳裕
教 育 次 長	竹内 敏
学 校 教 育 課 長	藤本 和史
人権教育課いじめ問題等対策室長	安西 政和
生涯学習課長	小林 恭子
教育文化課長	木野内 敦
文化の森振興本部企画振興部長	森吉 雅史
教育政策課長	臼杵 一浩
教育政策課副課長	木下 淳子

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 6月定例県議会における質疑応答の概要について報告する。

[議 事]

教育長 議案第13号及び議案第14号を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項3 徳島県立博物館新常設展基本構想（案）について》

教育長 報告を求める。

文化の森振興本部企画振興部長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

小林委員：ロビーゾーン、コミュニケーション・ゾーンというのは素晴らしい。県外の博物館にもよく行くが、大体順路が決まっている。縄文時代から始まって、近代とか近世が見たいと思っても、そこを通っていかないといけない。こういう博物館はとても良い。

企画振興部長：平成2年の頃は、こういう作り方が一般的だった。特に徳島県立博物館は自然と人文を両方持っている総合博物館ということで、いろんなものを見ていただきたいということから、一筆書き動線という強制的に動かせるようなものが流行っていた。ただ、これをしてしまうと、

途中のゾーンの展示替えが大規模にできなくなるという欠点があり、これまで、小規模な展示替えはできても、大規模な展示替えが行えなかった。今回の提案ではミュージアム・ストリートが自由動線になり、メインゾーンの大規模な展示替えが可能になる。これが大きな目玉であり、これをすることでタイムリーな展示替えが可能になる。

松重委員：常設展の新には、30周年を迎えること、意気込みを込めているのか。

企画振興部長：もともとタイムリーな展示がしたいということがあり、それプラス徳島の顔とは何か。その時々で移り変わっていくものがある。例えば、藍染めの時期には藍を中心とした展示。博物館に來れば、徳島県のすべてがわかる。博物館に來て、こういうものがあると知って、そこから県内各地に行っていたきたい。そういう常設展を作りたいということで、こういったゾーンとか、展示のテーマにさせていただいている。

松重委員：どういった年齢層をターゲットに考えているのか。

企画振興部長：今までは高齢者と学生の方が中心であったが、それは引き続き来ていただき、あと、県外からも来ていただきたい。今のところ、年配者と小学生に分かれてしまっている。県外から中年、壮年層の方には是非来ていただきたい。

松重委員：高知市内にできた博物館に行ってきたが、展示の工夫も色々とされている。普通だったら読んでいかないといけない所を、プロジェクターを使って映像化して、動きがわかるようにするなどの工夫がされている。

企画振興部長：そのあたりは4Kとか、バーチャルリアリティーなどを考えているが、大画面にすると更新に手間がかかるので、タブレットを活用して恐竜の骨であれば肉がついて実際に動く姿や、藍染めであれば染めていく過程とか。そういったものを見ていただいて、限られた展示用面積以上の空間の広がりを作っていきたい。そこで、埴輪とかの時代背景を子どもたちにきちっとわかてもらえるような展示にしていきたい。

松重委員：バーチャルリアリティーは極端に言うと、ここに来なくても、大体がわかるような、それを体験すれば、やはり実際に行ってみようということになる。

河口委員：コミュニケーション・ゾーン（交流の場）というのは大事と思う。こういったことで同じ年代の人とか、大人と子どもとか、職員の方からいろいろと教えていただく機会ができる。それが大きな学びにつながったり、興味が深まったりして良いと思う。徳島のいろいろな魅力をこういったところから発信する。訪れることによって、徳島への誇りが持てる。徳島の歴史

を知って、郷土愛を持てるようにしていただきたい。

それと、出前講座は、今も実施しているのか。

企画振興部長：今も実施している。

河口委員：以前、勾玉づくりとかしていただいて、子どもたちが興味を持って、博物館に行く機会も増えた。そういったことも絡んで来館者も増えるのではないかと。徳島の魅力度をどんどん上げていってもらいたい。

藤本委員 地球セクションというのはどのようなものか。

企画振興部長：徳島らしさ、徳島が見えると言うのをテーマに、常設展を作っていきたいと考えているが、地球全体の中で、徳島がどういうものか、徳島の特異性とかを見せる。地球全体の動きも見せていく。大きな意味では海外でとれた恐竜の骨もある。

藤本委員：はやぶさのこととか取り上げるのか。

企画振興部長：どれだけ展示できるものがあるかというのによるが、タイムリーなネタが話題になれば、それに関するものを集めてきたり、他の博物館と資料の貸し借りもしているので、自由に展示替えができることによつて、はやぶさが話題になれば、ゾーンを作るということも可能になる。

藤本委員：留学生とか、高齢者の方とか、例えば小学生は遠足で使うのか。

企画振興部長：海外の方には、今も一部でやっているが、コードを読み込んでいただくと翻訳した言葉で解説するというものも取り入れている。

小林委員：例えば小学生が遠足で来た場合、みんな揃って順路に沿って見ていくことになるが、この場合は真ん中のミュージアム・ストリートからそれぞれの部門へは一旦帰ってくるようになるのか。

企画振興部長：ミュージアム・ストリートが大きな廊下になっていて、興味があるところに行ける。遠足については、引率の先生も無料になる割引があるので、申請書類を出してもらい、毎日のように来てもらっている。

藤本委員：料金はいくらか。

企画振興部長：原則として教育的利用の場合は無料で入ってもらっている。博物館は博物館法により、入館料について定めがある。遠足の時に要望があれば、学芸員が案内をしている。

勢井副教育長：例えば、全部、総花的に回るのはではなく、特に価値のあるところを選んで、小学校低学年はこちらで、高学年はこちらとか、興味あるところを回るというのも新しい。

藤本委員：保護者が、自分では連れて行けないという方もいらっしゃるのでは、ぜひ学校で連れて行っていただくとありがたい。各学校に周知してほしい。

松重委員：構造壁は工事の必要はないのか。

企画振興部長：構造上，必要な壁は残して，それ以外の部分は取っ払って，こういった形にしていく。ちょうど，文化の森自体が30周年を迎え，長寿命化計画という施設全体の計画も進めているので，それと平行して直していくような形で考えている。

松重委員：夜の開館も考えているのか。

企画振興部長：今も，夏休み期間中，限られた日にはあるが，ナイトミュージアムとして開館しており，人気があるので，引き続きやっていきたい。

松重委員：夜の観光というか，自然もあるし，カルチャーもある。総合的に集客も含めてやれば。シンガポールならナイトズーというものもある。

藤本委員：文化の森への交通手段について，県外から来られる方のためにも，公共交通機関の手立てを考えてほしい。

企画振興部長：市の交通局にご協力いただき，最近，立ち寄ってくれる路線が1本増えたが，まだまだ不便ではある。

《報告事項1 第1回いじめ問題等対策審議会について》

教育長	報告を求める。
人権教育課いじめ問題等対策室長	内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし

《報告事項2 国史跡の指定について》

教育長	報告を求める。
教育文化課長	内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし

[非公開]

《議案第13号 平成31年度使用教科用図書採択基準等について》

《議案第14号 徳島県社会教育委員の補欠委員委嘱について》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後2時55分